

12月5日・6日 身近な人権について考える

西原中学校(比嘉栄真校長)で、1年生を対象として、那覇人権擁護委員協議会による人権教室が開催されました。「人権という言葉はどんなイメージ?」という問いかけに対して、生徒からは「こころを守ること」、「他人の気持ちを大事にすること」などの答えが挙がりました。その後のグループワークでは「言われたら傷つく言葉」を書き出して発表し、身の回りの人権について理解を深めました。また、6日には町役場で人権なんでも相談所が開設され、人権擁護委員制度の周知活動も行われました。



11月21日 小波津の美しさを描いた油彩画 総理大臣賞

第37回国際公募日現展において、町文化協会副会長で美術部会会長を務める山田武さん(字与那城)の油彩画「雨後の水溜り」が内閣総理大臣賞を受賞しました。受賞作品は字小波津の農道の水溜りの様子が描かれています。山田さんは「生活があって、行きかう人々の存在、ぬくもりが残っているところの美しさを描いた」と語りました。上間明町長は「この栄えある受賞は町民にとっても誇り高い」と功績を讃えました。



12月3日 登下校の見守り、ありがとう

西原町交通安全ボランティアとして今も活躍する仲里恵子さん(77歳)と砂川徳造さん(84歳)が町役場を訪れ、交通栄誉賞「緑十字銅賞」の表彰を受けたことを報告しました。仲里さん、砂川さんともに坂田小学校付近の横断歩道で、約20年間児童の登下校の見守りをしています。仲里さんは「一人ひとりの児童に声かけをされていて、お友達がたくさんできた」と笑顔を見せ、砂川さんは「子どもたちが大きい声で毎朝あいさつしてくれて嬉しい」とやりがいを語りました。上間明町長は「子どもたちを長い間事故から守ってくれて、本当にありがとうございます」と感謝を述べました。



12月 森永商品で演劇アピール

沖縄森永乳業株式会社が、森永ヨーゴのパックにNS2BPが主体となる創作演劇「さわりと運玉義留」の広告を掲載することが発表されました。西原町と同社は町事業への協力に関する包括連携協定を締結しており、本企画はその一環として昨年に引き続いて行われています。ぜひ、観に来てください。



森永ヨーゴ 946ml
日時 1月20日(日)
昼の部 13:30開演 夕べの部 16:30開演
場所 さわぶじ未来ホール
入場料 大人1,000円 高校生以下500円
お問い合わせ 産業観光課 ☎945-4540

12月15日 憧れの消防士!ファイヤーフェスティバル

消防・救急・救助を体験し、防災を学ぶことを目的として、第17回ファイヤーフェスティバルが東部消防組合消防本部で行われました。参加した親子は、ポンプ車からの放水や消火器での消火などを体験し、消防の仕事学びました。また、初めてはしご車に乗った子どもたちは、キラキラした瞳で屋根より高い空からあたりを見渡していました。



11月18日 ガーシャジチュ 我謝人の防災力高まる

住民の防災意識の向上を図るため、防災講話及びクロスロードゲームが我謝公民館で実施されました。防災講話では「身近な災害から身を守る」をテーマに、日本防災士会沖縄県支部長の新城格氏が過去の災害事例を挙げながら、自助(自分の命は自分で守る)・共助(地域住民が助け合う)の大切さについて講話をしました。その後、クロスロードゲーム*が行われ、災害時対応等について学びました。質問タイムには、参加者から津波の際の避難所の問題や、防災訓練はどのように計画しているのか等の質問があり、自主防災組織立ち上げに向け防災力を高める絶好の機会となりました。
*クロスロードゲームとは、災害時を想定した設問に対し、自分だったらどうするかを「Yes」か「No」で判断し、同時に相互に意見を交わすことをねらいとした集団ゲームです。



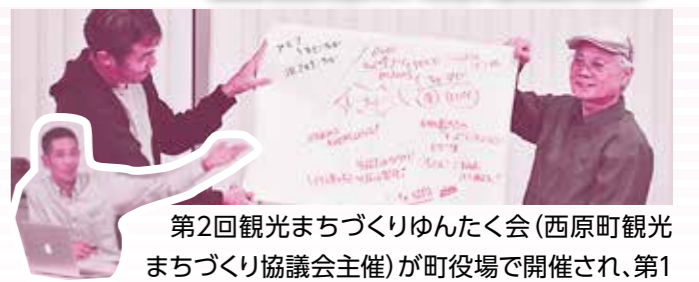
11月21日 白百合保育園 勤労感謝で訪問

勤労感謝の日を前に、西原白百合保育園(知念恵理香園長)ゆり組の園児たちが町役場を訪問し、まちづくりへのお礼として元気いっぱいに歌を披露し感謝状を贈呈しました。上間明町長は園児たちの可愛さに目を細め、「家族のために頑張っているお父さん、お母さんにも感謝の言葉を伝えてください」と話しました。サプライズでさわりんにも出迎えられ、園児たちは満面の笑みを浮かべていました。



11月7日 持続可能な観光まちづくりを考える

第2回観光まちづくりゆんたく会(西原町観光まちづくり協議会主催)が町役場で開催され、第1回に引き続き多くの方が参加しました。元糸満市観光協会職員伊藤憲翔さんが、「持続可能なまちづくりに必要なこと」をテーマに講演しました。「観光とは1つのツールで、「観光×教育」や「観光×医療」のようにどんな産業にも生かすことができる」という観点で、西原町の可能性について発表しあい、お互いのアイデアに聞き入っていました。



11月 11日~25日 草野球大会で少年たちを支援

第6回西原町サンウエストトーナメント軟式野球大会(同大会実行委員会主催)が、西原マリパーク球場で開催されました。町内の草野球チームを中心に21チームが参加し熱戦を繰り広げ、「サンライズフィールダー」が優勝しました。また、参加チームや協力企業から寄せられた大会支援金の一部が、当日試合補助をした町内少年野球チームの坂田ビクトリーズと西原東BBCに寄附されました。



11月15日 ヨウ素製品化に向け本格調査始動

字兼久の天然ガス試掘井ゆいまーる鉱山で、地下のかん水からヨウ素を製造する設備の稼働式が行われました。昨年より同地での試掘調査を進めている株式会社合同資源・株式会社祭温は、今回の調査で500kgのヨウ素採取を目指しています。日本とチリでヨウ素の世界産出量の9割を占めており、うがい薬などの医薬品や、液晶パネルの偏光フィルムなど様々な分野で利用されています。また、天然ガスを分離した後の地下水は温泉としての活用も期待されます。上間明町長は「実現すると新たな観光資源により本町の活性化だけでなく、県全体の振興、発展に寄与できる」と夢を膨らませました。

